



土岐市教育研究所  
TEL 0572-54-1111 (内374)  
FAX 0572-55-6310  
メールアドレス kyoiku@city.toki.lg.jp  
No. 586  
発行責任者 所長 西尾 実  
発行日 令和8年 3月 19日  
題字 長谷川 広和 教育長



撮影

濃南小中学校  
山田 鏡一 教頭

『6年生 生き方教室  
『パワーシヨベルって  
面白い』』

### 「土岐ふるさとカルタ」～自立・共生・貢献～

土岐市教育研究所長 西尾 実

土岐ロータリークラブ主催の土岐ふるさとカルタ大会が2月21日土曜日にセラトピア土岐の大ホールで行われました。同クラブが子どもに土岐市への愛着をもってほしいという願いから作った「土岐ふるさとカルタ」を市内全小学校に寄贈していただき、昨年度から小学1年生から3年生を対象としたカルタ大会を行っているものです。今年度からは、ふるさと学習のイベントとして教育委員会も一緒に参加させていただきました。

当日は100人を越える児童の参加があり、会場は、保護者の方やボランティアスタッフなどで一杯になりました。1年生のグループ予選が始まりました。学校でたくさん練習してきたのでしょう。やる気満々の男の子に目が留まりました。同じグループにはとても強い女の子がいて、思うようにカルタを取れません。勝負が進むにつれ、表情は険しくなり、1回戦第1ラウンド後半で泣き崩れそうでした。数メートル離れたところからご両親が心配そうに参観していました。たまらずお父さんが近寄り、一声掛けて何とか持ち直します。第2ラウンドは、ボランティアスタッフである土岐商業高校インターアクトクラブのお姉さんに励まされながら、何とか奮闘します。しかし、こみ上げてくる悔しさをこらえきれず、とうとう限界がきました。その時です。男の子に駆け寄ろうとするお父さんを隣にいたお母さんが制しました。手を出し過ぎず、近くで支えてくれているスタッフのロータリークラブのおじさんと高校生のお姉さんに任せようとお母さんは判断したのでしょ

う。第3ラウンド、男の子は少しずつ慣れてきたようでした。圧倒的に差がついていましたが、とうとう1枚取ることができました。すると、近くで心配そうに見つめるお父さんの顔を見あげて、ニッコリと微笑みました。1回戦で負けてしまった彼は、もう勝負はできないのに、同じグループだった決勝戦に進んだ子を真後ろから一生懸命応援し続けていました。あの時、お母さんがお父さんを止めずに、彼を抱きかかえてアウトしてしまったら、あの笑顔はなかったらと思うました。

2月28日現在の土岐市の令和7年度出生数は222人。少子化は加速し続け、人口減少とは裏腹に世帯数は増えており、核家族化や地域とのつながりの希薄化は進む一方です。この土岐ふるさとカルタ大会や前週に実施された土岐リレーマラソンのように、子どもが他の学校の子と顔を合わせ、つながりを持つ機会はとても貴重です。また、保護者同士が、子どもを通してつながりがもてる場でもあります。子どもは、学校や保護者だけではなく、様々な人たちとの関わりの中で育ちます。4月からスタートする第3次土岐市教育振興基本計画 夢・絆プランは「自立・共生・貢献」の3つの育みたい力を掲げています。土岐ロータリークラブ、土岐商インターアクトクラブの高校生が支える土岐ふるさとカルタ大会は、子どもの自立を願い、人とのつながりを生み出す素敵な大会になりました。毎年の名物イベントとして続けていきたいと思ひます。

【さよならみなみこども園特集】

## 笑顔にこころ 元気もいもり やる気どんどん 「明るく健やかな子」を目指して

土岐市立みなみこども園長 藤田 佳代

本園はこども園となって2年目。0歳児から5歳児までのお子さんをお預かりして保育を行っています。

子どもたちは、とても素直で人懐っこく子どもらしさに溢れています。一方で、自分の思いを強く主張したり相手の思いに気付かず悲しませてしまったりと、人と関わることに不器用さを感じられる子が多く見られました。そこで、今年度は『人と関わる』活動の充実を重点に、園目標『明るく健やかな子～笑顔にこころ 元気もいもり やる気どんどん～』の育成を目指して保育を進めてきました。

言葉ではまだ思いを伝えられない小さな子から就学を間近に控えた年長児全ての年齢の子に対して、思いを丸ごと受けとめ、安心して自分の思いを表せるようになることを大切にしてきました。どの子にも、泣いたり怒ったりしてでも伝えたい思いがあるということを受け止めます。そして、子ども達一人一人が、ありのままの自分でいいんだという思いがもてるようにし、その上で、相手にも思いがあることを丁寧に伝えていき、他者の気持ちに気付けるよう仲立ちをしていきました。

日々の応答的な関わりの積み重ねの中で、安心感をもった子どもたちは、自分の思いだけであった活動から、次第に周りへ目を向けられるようになり、誰かと一緒に楽しむ活動へと遊び方が変わってきました。

- ・5歳児の年間通して取り組んできたコンサート活動では、自分が表現する楽しさから向こう側の聴いてくれる相手を意識した活動へと変わってきました。



4歳児 みんなでやりたいことを相談

- ・4歳児の紙飛行機遊びでは、友達と自分の思いをすり合わせながら、ひとつのものを作り上げようとする姿や、自分のできることを友達や年下の子に教えてあげようとする姿が見られるようになりました。
- ・3歳児は、自分がしてもらったように小さい子の手をつなぎ歩調を合わせて歩こうとする姿を見せています。
- ・3歳未満の子たちは、身振りや簡単な言葉で伝えたい気持ちを表し、伝わり受け止めてもらうことの心地よさを感じ始めています。



3歳児 「鬼決め、鬼決め、誰が鬼かな・・・」

子ども達は皆、一人では味わうことのできない達成感を活動の中で味わっているようです。

これからも身近な大人、友達との関わりの中で、安心感をもちながら、笑顔で元気にやる気をもって活動している姿を大切に見守っていきたいと思っています。

ぼくは、「びかっち」。  
みなみこども園のマスコット。  
みんなの笑顔・元気・やる気を見  
守ってきたよ。



4月にはみなみこども園と駄知幼稚園が統合して駄知こども園が開園します。子ども達は、駄知こども園で新たな人、友達と出会います。新たな関わりを通して、更に心豊かに育ってほしいと願います。これまでの取り組みと統合する駄知幼稚園での取り組みの双方のよさを、駄知こども園でも生かしていけるよう引き継いでいきたいと思っています。

【さよなら駄知小学校附属幼稚園特集】

## 48年間の歴史に思いを馳せながら

土岐市立駄知小学校附属幼稚園長 伊藤 策雄

昭和53年3月30日に、来賓及び多くの地域の方にお越しいただき竣工式並びに祝賀会が行われました。



駄知小学校附属幼稚園が始まったのは昭和53年4月7日でした。当時は、なんと5歳児だけで6学級、園児237名、職員9名でのスタートでした。その年の6月にPTA奉仕作業で園庭への砂入れ、花壇への土入れ、土山造り、砂山拡張、タイヤの埋め込みなどが行われ園生活の準備が整えられました。また、駄知幼稚園で伝統的に行われてきた交通教室の発会式も昭和53年4月に行われました。夏の水遊びや運動会などは、附属幼稚園の利点を生かし、小学校と一緒に行われていました。

それから48年、この園での子ども達の笑顔や笑い声が響く日々が続いてきました。そして、閉園式の今年度の園児数を入れると4099名の園児が教育目標「明るく 元気な子」に成長して巣立っていきました。こうして振り返ってみると、この48年の歴史の重みをひしひしと感じています。

駄知幼稚園の子ども達は、本当に「元気で」「明るく」「優しい」子どもが多く、また、様々なこ



とに興味を示し、進んで挑戦できます。そんな子ども達は仲間と共に一人一人の個性を出しながら共に頑張る中で、園歌に何回も歌詞として出てくる「ぴっかりこ」の姿を見せ、一人一人が自分色

の光を輝かせてきました。こうした駄知幼稚園らしさも、48年に渡って受け継がれてきた大きな財産だと思います。

そして、48年間の素晴らしい歴史にピリオドを打つことができたのも、温かく見守り続けてくださった地域の皆さんのお陰だと思います。

閉園となる今年度においても、地域の飛炎太鼓の皆さんに太鼓教室を行っていただいたり、親子で抹茶茶碗に絵を描き、焼



いていただいた器を使ってのお抹茶教室を行ったりできたことも地域の皆様のお陰だと感謝しております。

そして、子ども達を鍛え、支え、見守り育ててきた先生方、本当にありがとうございました。先輩方の力があってこそこの48年の駄知幼稚園の園生活が成り立ってきました。

卒園児のみなさん、保護者のみなさん、地域のみなさん、先生方に感謝申し上げます。

最後に、駄知幼稚園ありがとう。さようなら。



# 令和7年度 学力向上推進委員会 活動報告

① 学力向上推進委員会では、以下の点について取り組んできた。

- 【第1回】「終末からの授業改善」について、取組の確認
- 【第2回】各校における全国学力・学習状況調査の結果分析  
学力向上に向けた各校の取組状況の交流
- 【第3回】今年度の実践のまとめ  
次年度に向けての提案
- 【その他】データ利活用推進校（泉小）の授業参観



② 「やってみよう」を引き出し、「できた」「わかった」と実感できる授業の実現のもと、「終末からの授業改善」について取り組んできた成果（○）と課題（▲）

【導入】	【展開】	【終末】
<p>○課題に対して、「どのように解決するか」「何を手がかりにするか」を確認したことで、見通しをもって学習に取り組むことができた。</p> <p>○授業の出口を明確にし、生徒が課題を見れば本時の授業で「何が分かればよいか」「何ができるようになればよいか」を見通すことのできる授業づくりができた。</p> <p>▲教師の発話量が多くなってしまい、情報を与えすぎてしまうことで、子どもの困り感がなく主体的な学習につながらない。</p>	<p>○本時のねらいにせまる深めの発問を位置づけることで、児童生徒が立ち止まり考える場が生まれた。</p> <p>○交流の視点を児童生徒にもたせることで、生徒が自らの考えとその根拠を明確にして交流することができた。</p> <p>▲期待する児童の姿を十分に具体化できておらず、発問が表面的なやり取りにとどまってしまう場面があった。</p> <p>▲展開に時間を取られ、終末の時間が足りない。</p>	<p>○本時の学び合いの良い姿を価値づける。</p> <p>○単元や本時で身に付けさせたい資質・能力を意識し、「何ができるようになったか」「何が分かったか」を児童生徒自身が言葉にする終末の活動を位置づけることができた。</p> <p>▲ねらいが明確でないと、終末の児童生徒の姿のイメージもぼんやりしてしまった。</p> <p>▲NEW！GIFU ウェブラーニングの活用について、結果の活用が十分でない実践もあり、実践を次の指導に生かできていない。</p>

③ 今後に向けて

- ・導入において、教師が児童生徒に対し情報を与えすぎず、できるだけ短くすることで、児童生徒の考える時間を確保する。
- ・深めの発問を吟味して、話し合いが焦点化されていくようにする。
- ・何がどのように深まったのかを児童生徒と共に振り返り、学びの自覚をより実感させる。

## 令和7年度 土岐市教育実践論文入賞者

部門	審査結果	学校名	氏名	教科・領域	論文テーマ
一般の部	優秀賞	泉中	江崎 紀子	音楽	生活や社会の中の音楽を学ぶ意義やよさを実感する生徒の育成 ～「三づくり」を核とした非認知能力の育ちに着目した実践を通して～
	優良賞	泉西小	正村 拓巳	その他	他者と協働する力を育み、安心して生活できる学年集団の形成 ～ミュージカルの取組を核として～
	優秀賞	西陵中	小栗 寛道	特別活動	学年担任制における学級活動の俯瞰的指導の在り方 ～持続可能な教育基盤を目指して～
	優良賞	泉中	井戸 勇太	総合的な 学習の時間	総合的な学習の時間における探究的な学習の実践 ～菌根菌を活用した農業の可能性の実践を通して～
	優秀賞	泉中	加知 美智子	管理経営	笑顔に包まれた学びの環境づくり ～生徒の学びの環境づくりを通じた事務職員の主体的な 校務運営への参画～
	優良賞	泉中	橋本 壮平	生徒指導	チーム学校で取り組む発達支持的な生徒指導の展開 －生徒指導提要に基づいた実践を通して－
新人の部	新人賞	泉小	夏目 果歩	体育/保健体育	仲間と共に運動の楽しさや喜びを味わう体育学習の創造 ～基礎的な技能を身に付け、運動の楽しさと意欲を高める的当てゲームの 実践を通して～
	入選	土岐津小	吉津 希代香	外国語活動	考えを表現することと世界とのつながりを意識した言語活動
	入選	肥田中	田角 玖美	国語	分かる実感味わうことのできる国語科の授業づくり ～学びの調整力を高める生徒の育成～
	入選	泉中	丹羽 鴻輝	国語	言葉一つ一つに着目し、言葉への自覚を高める生徒の育成 ～「俳句を味わう」の単元を活用し、言葉を吟味する学習活動を通して～

## 令和7年度 土岐市教育実践記録入賞者

審査結果	学校名	氏名	教科・領域	題目
教育長賞	泉西小	道下 直矢	算数/数学	研究推進だより 主体的に学び、互いに高め合う児童の育成のための授業記録
	泉中	岡島 美沙子	その他	泉中式日本語検定テスト、学年別漢字練習
	駄知小附 属幼稚園	伊藤 策雄	その他	園目標「明るく 元気な子」を目指した駄知幼稚園の取組
	市内全 小中学校	土岐市ICT 教育推進委員会	その他	土岐市版オリジナル情報モラル教材 「ちょっとだけ情報の学習」
特別賞	濃南小 濃南中	佐々木友貴 水野洋子	健康安全	ミガクンジャーゲームで健康な歯をゲットだぜ！
	泉小	加藤 拓真	算数/数学	泉中学校区「学校課題解決」研究発表会に向けての歩み
	西陵中	村瀬 光咲	図工/美術	美術における用語理解を深める授業実践 ～他教科連携とワークシートの工夫～
	泉中	江崎 紀子	その他	3分ミニ講座を活用した「研推だより」
	泉中	西 雅昭	その他	主幹だより
奨励賞	泉小	土本 裕之	算数/数学	教育データ利活用推進事業指定校としての実践内容について
	西陵中	小栗 寛道	特別活動	体育祭の取組を通して高まりを実感する全校通信の活用
	西陵中	高野 直紀	算数/数学	指導と評価の一体化の実現をめざして ～3年生「多項式」の実践より～

# 令和7年度 教育実践論文審査講評

審査委員長 土岐市立泉中学校 河合 広映

令和7年度、土岐市教育委員会の教育方針「『やってみたい』を引き出し、『できた』『わかった』と実感できる授業の実現」に向けて、

- ・主体的に取り組む学習指導の確立
- ・協働的な学びの実現

を実践課題の柱として、日々、教育実践を積み重ねていただいている教職員の皆様には深く感謝申し上げます。今年度も多くの実践論文の中からアイデアあふれる取組の成果と課題を共有し、土岐市の教育がより一層充実することを願い、成果と課題を記します。

## 1 応募状況

出品総数は、小学校10点、中学校17点の合計27点でした。内訳は、一般の部が14点、新人の部が13点でした。経験年数別では、6年目までの出品が13点、7～10年目までが2点、11～15年目までが6点、16～20年目までが2点、21年目以上が4点となっており、経験年数2年目から40年目までの幅広い層からの出品が今回の大きな特徴です。初任者から2年間の自身の実践を振り返り、次の実践に生かそうとする姿勢、また、これまで積み重ねてきた知見や経験を後輩に伝えていこうとする姿勢など、若手からベテランまでの土岐市教職員の情熱と前向きな姿勢を感じました。教科・領域別では教科18点、道徳や総合的な学習などの領域が9点でした。中でも、管理経営部門で出品された論文では、普段、財務等を担当する事務職員の校務運営参画の見方や考え方について、私たちに新たな気づきを与えてくれました。

## 2 教育実践論文にみられたよさや成果

### (1) 今日の教育課題の解決に取り組んだ点

「探究的学習」「学びの調整力」「個別最適化な学びと協働的な学び」「非認知能力」など、令和の日本型教育構築に向けた特徴的な内容を取り上げ、指導方法を工夫して取り組んだ実践が多くみられました。子どもの問いを大切に、成功体験が生まれるような学びの構成を考え「主体性」をもたせることを重点とするなど、今日の教育課題に取り組む論文が多くみられました。VUCAの時代といわれる現代において、学校教育が目指す

姿を具体的に描き、児童生徒の資質・能力を育むための指導方法や指導内容を模索し取り組んだ実践も多く見られました。

### (2) 児童生徒の変容を丁寧に分析していた点

パイパーQ Uや年間のアンケート等を通して、客観的データに基づき児童生徒の変容を把握する論文や、児童生徒の記述や声を記録し、指導方法の工夫によりその意識の変容を分析した論文などが多くみられました。児童生徒の変容を客観的な数値によって視覚化・可視化することによって、多面的な指導の可能性を広げたり、児童生徒の主体性を高めたりなど、「学びに向かう力」の非認知能力の育成に視点が当てられていました。

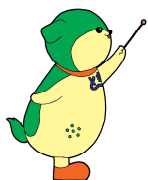
### (3) 新たな教師の学びの姿を取り上げていた点

付きたい力を明確にして、ねらいと本時の学習課題、終末での評価の整合性を図るための新たな協働的な学習の在り方を実践した論文が多くみられました。学びの形態を固定されたグループ学習だけではなく、メンバーを移動させたり他のグループへ学びに行ったりなど、授業の内容により意図的に工夫された協働的な学びとなっていました。また、主たる教材である教科書をじっくりと時間をかけて分析する教材研究の大切さに改めて気づかされた実践もありました。自分で新たな教材を開発したり、オリジナルの学習活動を発想・創造したりする「挑戦している姿」を学び、指導力向上の一助としてほしいです。

## 3 今後の課題

- ・論文の主張点を明確にして、児童生徒の姿を軸に実践内容の焦点化をさらに図りたい。
- ・VUCA 時代といわれる現代社会の中で、「どのような人間を育てていくか」という視点や「ウェルビーイング」「持続可能」というキーワードも踏まえて実践を重ねてほしい。
- ・出品していただいた小中学校教職員の実践論文を共有することを通して新たな発見や気づきを得て、自分自身の教育実践を見つめ直し、指導力向上につなげてほしい。

※VUCA【Volatility (変動制) Uncertainty (不確実性) Complexity (複雑性) Ambiguity (曖昧性)】



## 令和7年度 土岐市教育実践記録 審査講評

土岐市教育研究所 主任 早瀬 浩孝

今年度で9年目となる教育実践記録には、①教師の指導力向上②日々の実践への活用という目的があります。今回、12点の応募があり、いずれも、工夫と継続、熱意溢れるものばかりでした。審査の結果、「教育長賞」4点、「特別賞」5点、「奨励賞」3点を選ばせていただきました。その中で「教育長賞」に選ばれました4点の実践記録について、紹介します。

### ◇『園目標「明るく 元気な子」を目指した駄知幼稚園の取組』 伊藤 策雄園長（駄知小附属幼稚園）

園の教育目標に向かって目指す姿を明確にし、職員で取組や見届けを共有し、一丸となって園目標に向かって取り組んだ足跡となっています。目標に対しての到達状況の把握、日常的にできたことを褒める継続的な実践により、一人一人の確かな伸びが伝わる記録となっています。年間を通した「目標一取組一子どもの把握」が一本につながり、「明るく元気な子」が目に見え、目に浮かぶ記録となっています。

### ◇『研究推進だより 主体的に学び、互いに高め合う児童の育成のための授業改善案と実践記録』

道下 直矢先生（泉西小学校）

研究の段階をステージごとに明確にしていること、全校研究会で明らかになった課題についてどのように実践するのかを明確に示すことにより研究が着実に前進している点伝わってきます。「研推だより」により泉西小の授業の方向性を示し、実行性のある提案が参考となる実践です。

### ◇『泉中式日本語検定テスト、学年別漢字練習』岡島 美沙子 先生（泉中学校）

自律的に学習ができるように工夫されていました。学年別漢字練習帳は7か国語に対応しており、漢字、ふりがな、母国語が並んで表記されているため、生徒が自分で学習できるようになっているところが大変素晴らしいです。今後、読み方や発音などにも発展させることが期待できます。

### ◇『土岐市版オリジナル情報モラル教材「ちょっとだけ情報の学習」』 土岐市 ICT 教育推進委員会

市全体の課題である情報モラル教育について各学校の先生方にご協力いただきました。短い時間で取り組み、内容も豊富に用意されているため、すぐに取り組める実践となっています。情報モラルを点ではなく、年間を通した線で指導ができる内容であるため、現状の課題にあったものとなっています。

土岐市の子どもたちに力を付けるためには、教師一人一人が指導力を付けることが必要です。日々、子どもの立場に立った指導を求めて実践し、振り返ることが大切だと考えます。今後も、子ども目線に立ち、日々の実践を積み重ねていきたいです。来年度、さらに応募が増えることを期待しています。

# 読書の好きな子どもを育てる

令和7年度 土岐市学校図書館の取組



## 土岐津小学校



- ★国語の授業で作成したおすすめ本の紹介カード(POP)を展示
- ★学習でまとめた作品や新聞を図書館に掲示



- ・仲間の紹介する本に、多くの児童が興味をもっている。
- ・図書館の本を活用した授業にもつながっている。

## 土岐津中学校



- ★文学全集を、より気軽に手に取ってもらえるように廊下のスペースに移動
- ★映画化された本をテーマにした特別コーナーを作成

- ・文学作品に触れる機会を増やしている。
- ・図書支援員と生徒が協力して、より多くの人に興味をもってもらえている。



## 廣島 由美子 支援員

嬉しそうに本を手に取り、大切に読んでいる子どもたちの姿を見ると、こちらも思わず笑顔になります。「子どもたちや先生方の笑顔につながれば…」、「本・空間・人、この3つを充実させて、子どもたちが行きたくなる図書館にできれば…」そんな思いで務めています。

## 濃南小学校



- ★各学年の児童に書いてもらったおすすめの本の紹介カードを図書室内に目立つように配置
- ★読み聞かせボランティアの方が読んでくださった本やブックトークで紹介された本を集めた特設コーナーを設置



- ・児童にとって様々な本に触れる機会が増えている。
- ・新しく知った本にすぐに手を伸ばすことができ、読書への関心が深まっている。

## 濃南中学校



- ★「課題図書」や「星や宇宙に関する本」を紹介する特設コーナーを設置
- ★国語科の授業では、自分のこれまでの読書を振り返り、特に心に残った本を皆に紹介



- ・宇宙や星についての興味深い本を手にとって読んでいる。
- ・見た人が読んでみたくなるよう、イラストや文章で工夫をしている。

## 樋口 由 支援員

児童生徒が興味・関心をもち、本を取って読みたくなるような掲示やコーナー作りを工夫しています。また、本の返す場所を分かりやすくし、分類番号順での配架ができるようにするなど、館内整備にも努めています。

## 下石小学校

令和6年度  
東濃地区図書館教育賞  
総合優秀賞 受賞

★季節ごとにおすすめの本を展示

★歯科指導や性教育に関連する図書を展示



・命の学びにもつながり、多くの児童の成長に役立っている。  
・読書を通じて季節を感じてもらうことができ、貸出冊数の増加にもつながっている。

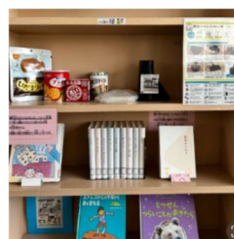


## 妻木小学校

令和7年度  
東濃地区図書館教育賞  
総合優秀賞 受賞

★ふるさと教育の一環として「故郷コーナー」を設置

★防災に関する本や災害を経験した人々のノンフィクション、心のケアに関する書籍の設置



・妻木町について知り、地域を大切にする心を育てることにつながっている。  
・読書を通じて防災意識の向上につながっている。



## 西陵中学校

令和7年度  
東濃地区図書館教育賞  
奨励賞 受賞

★生成AIに関する関連書籍や新聞記事を集めた専用コーナーを設置

★YouTuber「けんごさん」の本を特集の一環としてご紹介

・生活や社会において欠かさない生成AIの知識を深めている。  
・新たな小説との出会いにより、読書活動を推進している。



## 加知 恵子 支援員

図書館の役割として、「本を楽しむ」「本で学ぶ」「情報を提供する」の三本柱を常に意識しています。季節に応じた本や学習に役立つ本を展示している。また、新聞記事や図書館ニュースを活用して、重要と思われる情報を掲示するよう努めています。

## 望月 淳子 支援員

図書館を居心地の良い場所にすることを意識している。児童生徒が来るたびに変化を感じられるよう工夫し、それによって児童生徒の顔が「パパ」と明るくなることが、自分のやりがいにもつながっています。児童生徒との何気ない会話を積み重ねながら本の感想を聞き、それを基に取り入れる本の参考にしていきます。

## 駄知小学校

令和7年度  
東濃地区図書館教育賞  
優秀賞 受賞

★授業の単位に関連した書籍を集めたコーナーを設置

★授業で使う本や、担任が児童に読んでほしい本を図書館から教室へ届ける取組を実施



・タイムリーに本が置かれ、記憶の新しいうちに本を借りることができる。  
・教室でも図書館の本を活用して授業が進めることができる。



## 駄知中学校

令和7年度  
東濃地区図書館教育賞  
努力賞 受賞

★国語科で学んでいる内容の書籍を集め、「教科書のその先へ」というコーナーを設置

★先生方が自信をもっておすすめする本を随時紹介



・教科書で扱う内容をさらに深く知り、広がりのある読書ができる。  
・学校生活や学びをより充実させる一冊を見つけることができる。

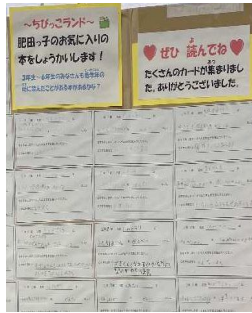


## 肥田小学校

- ★児童からのリクエストを受けて特設コーナーを設置
- ★児童がおすすめる本の紹介カードをボードに掲示



- ・読書週間の取組の一環として、図書支援員による「お話の時間」を設けている。
- ・多くの児童が本を紹介しており、「この本を読んでほしい」という気持ちが広がっている。



## 肥田中学校

- ★本の魅力やおすすめポイントを伝えるPOPの作成と設置
- ★季節や行事などに合わせたコーナーを設置



- ・読み手の興味や関心に寄り添った紹介をすることで、多くの生徒に本との新たな出会いを提供している。
- ・人権週間には人権に関わる本を厳選し、その内容や重要性を紹介する取組を実施している。



## 泉小学校

- ★各教科に関連する書籍を揃えた調べコーナーの設置
- ★「SDGs」「命を考える」「戦争を知る」「歯に関する本」などのコーナーを設置

- ・教育の場における学びを後押ししている。
- ・幅広い知識と視点を深められている。



## 板橋 俊子 支援員

児童生徒が、「図書館が好き」「本を読むことが楽しい」と感じられるよう、日々取り組んでいます。図書主任の先生との連携大切にし、図書館の本の配置、掲示物、放送、イベント、読書指導の方法などについて工夫を重ねながら、これからも楽しく仕事をしていきたいです。今は児童生徒から「先生、〇〇の本を読みたいけど、どこですか」と尋ねられることを嬉しく感じています。

## 井本 陽子 支援員

児童生徒が図書館に来てワクワクしたり、心穏やかになってくれたりすることを願って仕事をしています。コーナー作りを工夫し、親しみやすい掲示を設けたり、本の面出しや棚をすっきり整えたりすることを心がけています。児童生徒や先生の様子、他校の図書館を参考にしながら「次はこうしたい」と考え、改善を重ねることを楽しく感じています

## 泉西小学校

- ★先生がおすすめる本や、養護教諭から依頼された本の専用のコーナーを設置
- ★新聞コーナーの設置

- ・児童がより学び、興味を広げられるよう工夫している。
- ・新聞の丁寧な読み方のアドバイスや解説も提供しており、一人ひとりが内容に触れやすい環境を整えている。



## 泉中学校

- ★新着図書や先生のおすすめる本を紹介するボードを設置
- ★放送されている大河ドラマの時代や背景について、深く知ることができる関連書籍を紹介

- ・生徒たちに「こんな本があるんだ」と興味をもってもらい、気軽に図書館に足を運んでもらえている。
- ・歴史の学びと読書を結びつけることで、読むきっかけづくりになっている。



# 令和7年度 ぼくのわたしの考えた学校給食

## ベスト食育マイスター賞 ならびに 食育マイスター賞 紹介

ベストマイスター賞、食育マイスター賞が選ばれた基準は、まずは家庭科等で学習した「五大栄養素」を理解し、バランスの良い献立となっているということです。さらに「和食・洋食・中華」で献立が統一されており、「旬の食材」や「地元の食材」を上手に活用して、自分で工夫したオリジナル料理が考えられている献立を各学校で一つ選び、ベスト食育マイスターとして表彰しています。（日比野栄養教諭）

学校名	ベスト食育マイスター	献立	食育マスター
土岐津小学校	佐々木 暖	チュモッパ 甘辛チキン もやしのナムル 白菜と卵のスープ 牛乳	臼井 心那 宇川 心琴 山田 愛菜
下石小学校	安藤 碧人	とき味ごはん 里芋といかの煮付け 大根とかぶのゆず香あえ とき盛りだくさん豚汁 一食小魚 牛乳	原 孝太郎 鈴木 彩愛
妻木小学校	鈴木 綾	冬ざんまいごはん さっぱり！さわらのゆず塩こうじ焼き みずなのしゃっきりサラダ 日吉みそ汁 いよかん（みかん） 牛乳	安藤 日南 浅川 竜聖
濃南小学校	山田 怜奈	麦ごはん ぶりと大根のみそ煮 ブロッコリーのおかかのり和え 根菜たっぷりみそ汁 牛乳	
駄知小学校	長江 侑飛	ふるさとの味ごはん 茶碗蒸し風卵焼き 白菜の和風ゆず香あえ 冬野菜の日吉みそ汁 一食小魚 牛乳	濱田 大志 日比野 千咲 清岡 勇輝 福岡 彩葉
肥田小学校	水野 志音	麦ごはん すき焼き風揚げ豆腐 カルシウムたっぷりサラダ とろっと温かなめこのみそ汁 みかん 牛乳	水野 立馨 大前 風
泉小学校	平井 茜	米粉パン コケッとしめじグラタン ブロッコリーとツナマヨの冒険 ごろ甘かぼちゃのスープ オレンジ 牛乳	水野 いつみ 佐橋 花穂 赤木 滉平 山内 新太 藤井 一翔 加藤 暖
泉西小学校	加藤 由宇	麦ごはん 豚のゆず照り焼き ほうれん草としらすのおひたし 日吉みそのみぞれ汁 牛乳	酒井 佑 宮村 彪馬



水野志音さんの献立



平井茜さんの献立





## 「言葉のもつ力」

泉小学校 教頭 林 裕二

学校には日々さまざまな言葉が行き交います。その一つ一つが心を揺さぶり、前へ進む力を与えてくれます。

今から十年前、二十年目を中津川市内の中学校で迎えた私は、同じ年に入学したY子さんと出会いました。中学1年の頃の彼女は静かで、自分の作品づくりに丁寧に向き合う生徒でした。しかし2年生になると、遅刻や欠席、授業エスケープが増え、登校しても相談室で過ごす日が続きました。保護者の方も学校への不信を募らせ、対話がとても難しい状況でした。

3年生に進級した彼女の担任となりました。始業式には姿を見せませんでした。放課後に派手な身なりで教室を訪れ、自分の思いを一気に語りました。受け入れがたい主張も多くありましたが、まずは彼女の考えを受け止めることに徹しました。GW頃までは遅刻しながら教室で過ごせていましたが、その後は図書室が主な居場所となり、多くの教師に反発したり、関わりを避けたりするようになりました。それでも保護者とは対立すること

なく、進路希望を共有することができていました。ところが卒業式直前、誤解をきっかけに、より溝が深くなってしまい、母親からも「金輪際娘に関わるな」と一方的に言われてしまいました。それでも学年の先生方と協力し、卒業式には参加できるように調整しました。そして迎えた卒業式。Y子さん親子は開始時刻ぎりぎり体育館に入場し、式後は誰にも見送られることなく帰って行きました。

五年後、成人式の会場外でY子さんと再会しました。無視されても仕方ないと思いながら「新成人おめでとう」と声をかけると、彼女は照れながら「ありがとうございます」と返してくれました。その一言で、胸に残っていた重たい思いがすっとほどけていくのを感じました。

言葉は人を支え、場を整え、未来を育てていく力をもっています。これからも一つ一つの言葉を丁寧に受け止め、教育の現場で生かしていきたいと思います。

### 令和7年度 二宮文化賞・教育文化賞



2月27日(金)土岐市文化プラザにて、市長・市議会議員・各小中学校の校長先生方を来賓にお迎えして授賞式が行われました

今年度の二宮文化賞は小畑頼和(筆名: 頼圭二郎)氏です。現代詩作家で土岐市の文芸祭にも深く関わりがあり、今年度の「児童生徒能力開花応援事業」でも現代詩講座の講師としてお世話になりました。

教育文化賞は教育功労賞5名、学校教育賞2校、善行賞1名、小中学生の文化賞26名、スポーツ賞64名合計98名でした。



受賞者を代表して、土岐津小学校の塚本校長先生の「ここにいる人たちは、それぞれ分野は違うけれど、一つ共通していることがあります。それは、努力を積み重ねてきた結果がこの賞につながったということです。これからも、努力を重ね、さらなる高みを目指したい。」というお話が大変印象的でした。